



学校だより 5月号

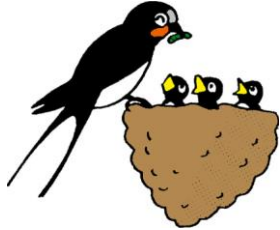
石川小学校スローガン

「みどり・ふれあい・すこやか 笑顔いっぱい 石川の子」

平成31年4月26日

横浜市立石川小学校

校長 寺園 淳



つながるもの・つづいていくもの

副校長 宮崎 里子

寒い日が続いた4月もようやく暖くなりました。自然園のせせらぎにはオタマジャクシが元気に泳いでいます。子育て中のツバメが飛び交う様子を子どもたちが「先生！見て！ツバメが飛んでいるよ！」と大きな声で知らせています。

自然園のことでは、昨年、現6年生が5年生の頃に毎日熱心に田んぼの観察に通っていたことが思い出されます。稲作ではあいにく田んぼの土が痩せ、水はけが悪いことから、子どもたちの願いもむなしく、稲はほとんど実が入らずお米を炊いて収穫を祝うことはできませんでした。

「来年の5年生にはこういう思いをさせたくない。」と、子どもたちは教師と相談し、田んぼの土の改良はどのようにしたらよいか一生懸命考えました。うわさを聞いた別の学年の保護者の方が、肥料である「ぼかし」をくださいました。それを土に混ぜ込んで少しでも元気な田んぼになるよう骨を折り、ヘドロのようになった土を掘り出して、黒土を新たに入れられるように準備をしてくれました。

このような子どもたちの思いを受け、石川小学校の大きな財産であるこの田んぼを再生させなければならないと考えました。そこでこの春、近隣の横浜植木さんのご協力をいただき、田んぼの改良工事に着手することにしました。田んぼの土の下には、水はけがうまくできるように透水管を埋め込んで、自然園の循環水路を最大限生かせるようにします。

これも子どもたちが真剣に学習に取り組み、教師と共に悩みながら「次の学年のために何ができるか」アクションを起こし、心配してくれた姿があったからこそ実現できたのだと思います。

子どもたちを豊かに育むのは成功体験だけではありません。時に、失敗の経験を通して得るものは、とても大きいこともあります。今回、稲作の苦労を実感するとともに、あとにつづく下学年への気遣いが、こうして田んぼの大掛かりな改良工事につながりました。

今年の秋、豊かに実った稲穂を5年生が満面の笑顔で収穫できますように……。そんな5年生を温かく見つめ、満足気に微笑む6年生の姿が目に見えます。

石川小学校の教育は異学年への思いも大切にしています。

「つながるもの・つづいていくもの」は目には見えませんが、「**石川魂**」として子どもたちの風土に根付いています。

これもひとえに保護者・地域の皆様の本校教育へのご理解と温かなご支援あってのことと心より御礼申し上げます。職員一同、子どもたちの豊かな学びのためにさらに尽力して参ります。